

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コリツダガクテツジン コチダガク 国立大学法人 高知大学								
フリガナ大学の名称	コチダガク ダガクイン 高知大学 大学院 (Graduate School, Kochi University)								
大学本部の位置	高知県高知市曙町二丁目5番1号								
大学の目的	<p>高知大学は、四国山地から南海トラフに至るまでの地球環境を眼下に収め、「地域から世界へ、世界から地域へ」を標語に、現場主義の精神に立脚し、地域との協働を基盤とした、人と環境が調和のとれた安全・安心で持続可能な社会の構築を志向する総合大学として教育研究活動を展開する。教育では、総合的教養教育を基盤とし、「地域協働」による教育の深化を通して課題解決能力のある専門職業人を養成する。研究では、黒潮圏にある豊かな地域特性を生かした多様な学術研究を展開する。もって、世界と地域を往還する教育・研究の成果を発信し、地域社会・国際社会の発展に寄与する。そのため、以下の基本目標を掲げる。</p> <p>1. 教育 総合的教養教育の実現により、各学部・学科等のディプロマ・ポリシーに従いそれぞれの専門性を身に付けるとともに、分野を横断した幅広い知識・考え方が学生自身の内部で統合され、世の中に働きかける汎用的な能力にできる人材の育成を目標とする。また高知県にある唯一の国立大学であることを意識し、とりわけ、地域、海洋、防災、医療に関する学際的な教育を本学の特色と位置づけ、グローバルに通用する知識・考え方を教授するとともに地域での実践活動を通じ地域の発展に貢献できる人材育成を目指した「地域協働」による教育を実施する。</p> <p>2. 研究 地域の活性化を目指した人間社会、海洋、環境、生命を研究の中心におくとともに、大規模災害に備える防災科学を研究目標に掲げる。また、黒潮圏諸国をはじめとした学内外の研究者間交流を一層促進し、異分野融合研究を推進する。</p> <p>3. 地域連携とグローバル化 地域課題を組織的かつ機動的に解決するために、域学連携教育研究体制を強化することで、人材育成、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に資する。これにより、地域に欠くことのできない大学として、地域の振興と地域社会の健全な維持・発展に貢献する。また、アジア・大洋州等の開発途上国とのつながりを重視し、高知県における地域資源の特徴を生かした国際協力を推進するとともに、それらを教育・研究の場として活用し、実践的で国際的な教育研究による国際貢献を図る。もって、地域で得られた成果を世界に発信すると同時に、世界の動きを地域に反映させる「グローバル教育・研究」を展開することをグローバル化の基盤に据える。</p>								
新設学部等の目的	高知県の教育を新しく創造するとともに、複雑さを増していく現代社会の中で子どもたちが自律的に未来を切り開いていけるための教育を構築・提供できる高度な専門性と実践力を備えた教員を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	教職大学院
	総合人間自然科学研究科 教職実践高度化専攻 [Program for Advanced Professional Development in Teacher Education, Graduate School of Integrated Arts and Sciences]	2年	15人	—	30人	教職修士（専門職） Master of Education (Professional)	令和4年4月 第1年次	高知県高知市曙町二丁目5番1号	
	計	—	15	—	30				

同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)		高知大学大学院 総合人間自然科学研究科 教育学専攻〔募集停止〕(M △12) 応用自然科学専攻〔募集停止〕(D △6) 教職実践高度化専攻〔募集停止〕(P △15) 総合人間自然科学研究科 応用自然科学専攻〔設置〕(D 6) (令和3年6月設置計画書提出) 教職実践高度化専攻〔設置〕(P 15) (令和3年7月設置報告書提出)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
		講義	演習	実習	計					
総合人間自然科学研究科 教職実践高度化専攻		52科目	10科目	12科目	74科目	46単位				
教員 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設 分	総合人間自然科学研究科博士課程 応用自然科学専攻		32 (32)	6 (6)	3 (3)	2 (2)	43 (43)	0 (0)	16 (16)
		総合人間自然科学研究科専門職学位課程 教職実践高度化専攻		12 (12)	13 (13)	5 (5)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	11 (11)
		計		44 (44)	19 (19)	8 (8)	2 (2)	73 (73)	0 (0)	27 (27)
	既設 の 概 要	総合人間自然科学研究科修士課程 人文社会科学専攻		28 (28)	23 (23)	9 (9)	0 (0)	60 (60)	0 (0)	1 (1)
		総合人間自然科学研究科修士課程 理工学専攻		36 (36)	27 (27)	15 (15)	6 (6)	84 (84)	0 (0)	2 (2)
		総合人間自然科学研究科修士課程 医科学専攻		43 (43)	19 (19)	14 (14)	32 (32)	108 (108)	0 (0)	5 (5)
		総合人間自然科学研究科修士課程 看護学専攻		7 (7)	6 (6)	7 (7)	3 (3)	23 (23)	0 (0)	12 (12)
		総合人間自然科学研究科修士課程 農林海洋科学専攻		36 (36)	26 (26)	7 (7)	3 (3)	72 (72)	0 (0)	0 (0)
総合人間自然科学研究科修士課程 地域協働学専攻		9 (9)	9 (9)	2 (2)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	0 (0)		
総合人間自然科学研究科博士課程 医学専攻		44 (44)	34 (34)	31 (31)	67 (67)	176 (176)	0 (0)	6 (6)		
総合人間自然科学研究科博士課程 黒潮圏総合科学専攻		12 (12)	13 (13)	3 (3)	1 (1)	29 (29)	0 (0)	0 (0)		
計		215 (215)	157 (157)	88 (88)	113 (113)	573 (573)	0 (0)	26 (26)		
合計		259 (215)	176 (157)	96 (96)	115 (115)	646 (646)	0 (0)	53 (53)		
教員以外の 職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		283 (283)		323 (323)		606 (606)			
	技 術 職 員		59 (59)		78 (78)		137 (137)			
	図 書 館 専 門 職 員		11 (11)		8 (8)		19 (19)			
	そ の 他 の 職 員		22 (22)		34 (34)		56 (56)			
	計		375 (375)		443 (443)		818 (818)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 2,139,617㎡				
	校舎敷地	451,584㎡	0㎡	0㎡	451,584㎡					
	運動場用地	65,901㎡	0㎡	0㎡	65,901㎡					
	小 計	517,485㎡	0㎡	0㎡	517,485㎡					
	そ の 他	1,573,787㎡	0㎡	0㎡	1,573,787㎡					
	合 計	2,091,272㎡	0㎡	0㎡	2,091,272㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		130,560㎡ (130,560㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	130,560㎡ (130,560㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	81室	128室	510室	9室 (補助職員0人)	5室 (補助職員2人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		総合人間自然科学研究科 教職実践高度化専攻		26 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	専攻単位での特 定不能なため、 大学全体の数		
	総合人間自然科学研究科 教職実践高度化専攻	714,595〔188,025〕 (714,595〔188,025〕)	34,057〔19,512〕 (34,057〔19,512〕)	10,913〔10,913〕 (10,913〔10,913〕)	2,467 (2,467)	4,448 (4,448)	0 (0)			
	計	714,595〔188,025〕 (714,595〔188,025〕)	34,057〔19,512〕 (34,057〔19,512〕)	10,913〔10,913〕 (10,913〔10,913〕)	2,467 (2,467)	4,448 (4,448)	0 (0)			
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		9,557㎡		988	793,833					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		4,794㎡		柔・剣道場, 弓道場, テニスコート, プール等を有している						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			—							
大 学 の 名 称		高知大学								
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
総合人間自然科学研究科 人文社会科学専攻		年	人	年次 人	人	修士(文学) 修士(学術) 修士(経済学) 修士(教育学)	0.52	平成20年度	高知県高知市曙町 二丁目5番1号	
教育学専攻		2	12	—	24	修士(教育学)	0.54	平成20年度	同上	
理学専攻		2	—	—	—	修士(理学)	—	平成20年度	同上	
理工学専攻		2	55	—	110	修士(理学) 修士(理工学)	1.05	令和2年度	同上	
医科学専攻		2	15	—	30	修士(医科学) 修士(公衆衛生学)	0.76	平成20年度	高知県南国市岡豊 町小蓮	
看護学専攻		2	12	—	24	修士(看護学)	1.03	平成20年度	同上	
農学専攻		2	—	—	—	修士(農学)	—	平成20年度	高知県南国市物部 乙200	
農林海洋科学専攻		2	55	—	110	修士(農学) 修士(海洋科学)	0.63	令和2年度	高知県南国市物部 乙200	
地域協働学専攻		2	3	—	6	修士(地域協働学)	1.00	令和2年度	高知県南国市物部 乙200	

既設大学等の状況	教職実践高度化専攻	2	15	—	30	教職修士（専門職）	0.86	平成30年度	高知県高知市曙町二丁目5番1号	
	応用自然科学専攻	3	6	—	18	博士（理学） 博士（学術）	0.88	平成20年度	同上	
	医学専攻	4	30	—	120	博士（医学）	0.65	平成20年度	高知県南国市岡豊町小蓮	
	黒潮圏総合科学専攻	3	6	—	18	博士（学術）	0.27	平成20年度	高知県南国市物部乙200	
	人文学部								高知県高知市曙町二丁目5番1号	平成28年度より学生募集停止（人文学部）
	人間文化学科	4	—	—	—	学士（文学）	—	平成15年度		
	国際社会コミュニケーション学科	4	—	—	—	学士（学術）	—	平成15年度		
	社会経済学科	4	—	—	—	学士（経済学）	—	平成15年度		
	人文社会科学部								同上	
	人文社会科学科	4	275	3年次10	1120	学士（文学） 学士（学術） 学士（経済学）	1.05	平成28年度		
	教育学部								同上	
	学校教育教員養成課程	4	130	—	520	学士（教育）	1.05	平成15年度		
	生涯教育課程	4	—	—	—	学士（教養）	—	平成15年度		平成27年度より学生募集停止（生涯教育課程）
	理学部								同上	
	理学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	平成19年度		平成29年度より学生募集停止（理学部）
	応用理学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	平成19年度		
	理工学部			3年次					同上	
	数学物理学科	4	55	2	224	学士（理学）	1.02	平成29年度		
	情報科学科	4	30	2	124	学士（理工学）	1.06	平成29年度		
	生物科学科	4	45	2	184	学士（理学）	1.06	平成29年度		
	化学生命理工学科	4	70	2	284	学士（理工学）	1.05	平成29年度		
	地球環境防災学科	4	40	2	164	学士（理工学）	1.04	平成29年度		
	医学部								高知県南国市岡豊町小蓮	
	医学科	6	110	2年次5	685	学士（医学）	1.00	平成15年度		
	看護学科	4	60	3年次10	260	学士（看護学）	1.00			
	農学部								高知県南国市物部乙200	平成28年度より学生募集停止（農学部）
	農学科	4	—	—	—	学士（農学）	—	平成19年度		
	農林海洋科学部								同上	
	農林資源環境科学科	4	90	—	360	学士（農学）	1.03	平成28年度		
	農芸化学科	4	45	—	180	学士（農学）	1.02	平成28年度		
海洋資源科学科	4	65	—	260	学士（海洋科学）	1.04	平成28年度			
地域協働学部								高知県高知市曙町二丁目5番1号		
地域協働学科	4	60	—	240	学士（地域協働学）	1.05	平成27年度			

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：高知大学教育学部附属幼稚園 目的：幼児を保育し，適正な環境を与えて，その心身の発達を助長するとともに，高知大学教育学部における教育の理論及び方法の実証並びに学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：高知県高知市小津町10-26 設置年月：昭和30年7月 規模等：敷地面積：7,847.23㎡ 延べ建物面積：1,007㎡</p>	
	<p>名称：高知大学教育学部附属小学校 目的：心身の発達に応じて初等普通教育を施すとともに，高知大学教育学部における教育の理論及び方法の実証並びに学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：高知県高知市小津町10-13 設置年月：昭和26年4月 規模等：敷地面積：21,777.41㎡ 延べ建物面積：7,273㎡</p>	
	<p>名称：高知大学教育学部附属中学校 目的：小学校における教育の基礎の上に，心身の発達に応じて，中等教育を施すとともに，高知大学教育学部における教育の理論及び方法の実証並びに学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：高知県高知市小津町10-91 設置年月：昭和26年4月 規模等：敷地面積：25,503.94㎡ 延べ建物面積：6,510㎡</p>	
	<p>名称：高知大学教育学部附属特別支援学校 目的：知的障害児に対して，小学校・中学校及び高等学校に準ずる教育を行い，併せて，その能力に応じて，社会的自立に必要な知識，技能，態度を養うとともに，高知大学教育学部における障害児教育の理論及び方法の実証並びに学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：高知県高知市曙町二丁目5-3 設置年月：昭和45年4月 規模等：敷地面積：7,261.00㎡ 延べ建物面積：3,436㎡</p>	
	<p>名称：高知大学工学部附属高知地震観測所 目的：地震、潮位等の観測により自然地震の発生機構、地殻構造、地盤変動等の解明及び地震予知に関する研究を行い、あわせて学生の実験実習を行うことを目的とする。 所在地：高知市朝倉本町二丁目17-47 設置年月：昭和41年4月 規模等：敷地面積：263㎡ 延べ建物面積：527㎡</p>	
	<p>名称：高知大学工学部附属水熱化学実験所 目的：主として高温、高圧の水が関与する物質の挙動について研究を行い、あわせて学生の実験実習に供することを目的とする。 所在地：高知市朝倉本町二丁目17-47 設置年月：昭和48年4月 規模等：敷地面積：404㎡ 延べ建物面積：1,542㎡</p>	
	<p>名称：高知大学医学部附属病院 目的：診療を通じて，医学の教育及び研究を行うことを目的とする。 所在地：高知県南国市岡豊町小蓮185-1 設置年月：昭和56年4月（開設：昭和56年10月） 規模等：敷地面積：66,717.23㎡ 延べ建物面積：63,662㎡</p> <p>名称：高知大学農林海洋科学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター 目的：フィールドサイエンスに関する実践的教育研究を推進するとともに，共同研究，人的交流等の促進を通して，地域社会及び国際社会に貢献することを目的とする。 所在地：高知県南国市物部乙200，高知県香美市土佐山田町上穴内 設置年月：平成15年4月 規模等：敷地面積：1,458,220.72㎡ 延べ建物面積：7,202㎡</p>	

教育課程等の概要															
(総合人間自然科学研究科 専門職学位課程 教職実践高度化専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	開かれた教育課程の開発と実践	1・後	2			○				2				共同 ※演習
		ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	1・前	2			○			1	1				共同 ※演習
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	アクティブラーニングの理論と実践	1・前	2			○			2	1				共同 ※演習
		ICTを活用したデジタル教育の理論と実践	2・前	2			○			2	4				共同 ※演習
	生徒指導及び教育相談に関する領域	変動する社会と生徒指導の理論と実践	1・前	2			○			1	1	1			共同 ※演習
		教育相談の理論と実践	2・前	2			○			2		2			共同 ※演習
	学級経営及び学校経営に関する領域	学校組織マネジメントの理論と実践	1・前	2			○			1	1				兼1 共同 ※演習
		学級経営の理論と実践	1・後	2			○			1	2				共同 ※演習
	学校教育と教員の在り方に関する領域	高知県の学校教育をめぐる現代的課題	1・後	2			○			2	1				兼1 共同 ※演習
		教育実践を科学するーデータサイエンスでみる高知県の教育課題ー	1・前	2			○			1	1	1			共同 ※演習
	小計(10科目)	—	20			—			9	11	3			兼1	
専門科目	学校マネジメントコース	学校管理職の役割と実践	1・前		2		○			1					兼1 共同 ※演習
		学校組織開発の理論と実践	1・前		2		○								兼1 集中
		保幼小中高の連携によるキャリア発達	1・後		2		○			1	2				共同 ※演習
		学校に求められるリスクマネジメント	1・後		2		○			1	1				共同 ※演習
		学校組織開発のための学校評価	1・後		2		○								兼1 集中
		学級経営の開発的実践	1・前		2		○				1				※演習 オムニバス
		組織的な生徒指導と人権教育	2・前		2		○			2					※演習
		高知県の地域教育リソース開発	2・前		2		○				2	1			兼1 共同 ※演習
	学校組織開発演習	2・後		2			○							兼1 集中	
	小計(9科目)	—	18			—			3	5	1			兼2	
授業実践コース	道徳教育の理論と実践	1・前		2		○			1					※演習	
	就学前からの発達と教育実践	1・後		2		○			1	1	1			共同 ※演習	
	教育評価から捉える子どもの心理と理解	1・前		2		○			1	2	1			共同 ※演習	
	授業におけるICT活用の開発的実践	1・前		2		○			3	3				共同 ※演習	
	高知県の教育実践の実態把握と教育方法の開発	2・前		2		○				1				兼1 共同 ※演習	
	理科学習指導法の理論と実践	1・前		2		○				2				兼1 共同 ※演習	
	理科教材研究・開発の理論と実践	1・後		2		○				2				兼4 共同 ※演習	
	理科教育マネジメントの理論と実践	2・前		2		○				2				共同 ※演習	
	理科授業分析・改善演習	2・後		2		○				2				共同 ※演習	
	英語科学習指導法の理論と実践	1・前		2		○			1	1				共同 ※演習	
	英語科教材研究・開発の理論と実践	1・後		2		○			1	1				共同 ※演習	
英語科教育マネジメントの理論と実践	2・前		2		○			1	1				共同 ※演習		

	英語科授業分析・改善演習	2・後	2	○		1	1							共同 ※演習	
	算数・数学科の学習指導の理論と実践	1・前	2	○		1	1	1						共同 ※演習	
	算数・数学科の教材研究の理論と実践	1・後	2	○			1							共同 ※演習	
	算数・数学科の教材開発と授業デザインの理論と実践	2・前	2	○		1	2	1						共同 ※演習	
	算数・数学科の授業研究と授業改善演習	2・後	2	○		1	2	1						共同 ※演習	
	国語科学習指導法の理論と実践	1・前	2	○		2	1							共同 ※演習	
	国語科教材研究・開発の理論と実践	1・後	2	○		2	1							共同 ※演習	
	国語科教育マネジメントの理論と実践	2・前	2	○		2	1							共同 ※演習	
	国語科授業分析・改善演習	2・後	2	○		2	1							共同 ※演習	
	社会科学学習指導法の理論と実践	1・前	2	○		1	1							兼1 共同 ※演習	
	社会科教材研究・開発の理論と実践	1・後	2	○		1	1							兼1 共同 ※演習	
	社会科教育マネジメントの理論と実践	2・前	2	○		1	1							兼1 共同 ※演習	
	社会科授業分析・改善演習	2・後	2	○		1	1							兼1 共同 ※演習	
	小計(25科目)	—	50	—		7	10	3						兼9	
特別支援教育コース	特別支援教育の理論と推進・連携体制の構築	1・後	2	○		1								※演習	
	限局性学習症評価の基礎と実際	1・前	2	○		1								※演習	
	限局性学習症指導の理論と実践	1・後	2	○		1								※演習	
	注意欠如多動症評価の基礎と実際	1・前	2	○		1								※演習	
	注意欠如多動症指導の理論と実践	1・後	2	○		1								※演習	
	知的障害指導の理論と実践	2・後	2	○				1						集中	
	肢体不自由評価の基礎と実際	1・前	2	○		1	1							共同 ※演習	
	病弱評価の基礎と実際	2・前	2	○		1								兼1 オムニパス 集中	
	高知県の特別支援教育の実態把握と分析	2・前	2	○		1	1							共同 ※演習	
小計(9科目)	—	18	—		2	1	1						兼1		
総合実践力科目	学校マネジメントコース	教育実践研究Ⅰ(学校マネジメント)	1・通	2	○		10	10	3					兼1 共同 集中 ※講義	
		教育実践研究Ⅱ(学校マネジメント)	2・通	4	○		10	10	3					兼1 共同 集中 ※講義	
		総合実践研究(学校マネジメント)	2・後	2	○		10	10	3					兼1 共同 集中 ※講義	
	授業実践コース	教育実践研究Ⅰ(授業実践)	1・通	2	○		10	10	3					兼1 共同 集中 ※講義	
		教育実践研究Ⅱ(授業実践)	2・通	4	○		10	10	3					兼1 共同 集中 ※講義	
		総合実践研究(授業実践)	2・後	2	○		10	10	3					兼1 共同 集中 ※講義	
	特別支援教育コース	教育実践研究Ⅰ(特別支援教育)	1・通	2	○		2	1	2						共同 集中 ※講義
		教育実践研究Ⅱ(特別支援教育)	2・通	4	○		2	1	2						共同 集中 ※講義
		総合実践研究(特別支援教育)	2・後	2	○		2	1	2						共同 集中 ※講義
	小計(9科目)	—	24	—		12	11	5						兼1	

実習科目	学校マネジメントコース	学校マネジメント実習Ⅰ（学部卒用）	1・通	4				○	10	12	3			兼1	共同 集 中 共 集 中 共 集 中 共 集 中
		学校マネジメント実習Ⅱ（学部卒用）	2・通	6				○	10	12	3			兼1	
		学校マネジメント実習Ⅰ（現職教員卒用）	1・通	4				○	10	12	3			兼1	
		学校マネジメント実習Ⅱ（現職教員卒用）	2・通	6				○	10	12	3			兼1	
	授業実践コース	授業実践実習Ⅰ（学部卒用）	1・通	4				○	10	12	3			兼1	共同 集 中 共 集 中 共 集 中
		授業実践実習Ⅱ（学部卒用）	2・通	6				○	10	12	3			兼1	
		授業実践実習Ⅰ（現職教員用）	1・通	4				○	10	12	3			兼1	
		授業実践実習Ⅱ（現職教員用）	2・通	6				○	10	12	3			兼1	
	特別支援教育コース	特別支援教育実習Ⅰ（学部卒用）	1・通	4				○	2	1	2				共同 集 中 共 集 中 共 集 中
		特別支援教育実習Ⅱ（学部卒用）	2・通	6				○	2	1	2				
		特別支援教育実習Ⅰ（現職教員用）	1・通	4				○	2	1	2				
		特別支援教育実習Ⅱ（現職教員用）	2・通	6				○	2	1	2				
		小計(12科目)		—	60			—	12	13	5			兼1	
合計（74科目）			—	20	170		—	12	13	5			兼11		
学位又は称号		教職修士（専門職）		学位又は学科の分野				教員養成関係							
修了要件及び履修方法								授業期間等							
<p>【修了要件】 共通科目20単位以上，専門科目8単位以上，総合実践力科目8単位、実習科目10単位の合計46単位以上を修得すること。</p> <p>【履修方法】 ・共通科目について，5つの領域から各4単位以上の計20単位を修得すること。 ・専門科目について，所属するコース（学校マネジメントコース／授業実践コース／特別支援教育コース）に関する科目8単位を修得すること。 ・総合実践力科目について，所属するコース（学校マネジメントコース／授業実践コース／特別支援教育コース）に関する科目8単位を修得すること。 ・実習科目について，所属するコース（学校マネジメントコース／授業実践コース／特別支援教育コース）・対象（学部卒／現職教員）に関する実習Ⅰ・Ⅱの計10単位を修得すること。</p> <p>履修登録上限単位数 22単位（1学期あたり）</p>								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

【旧課程】

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教育課程等の概要																
（高知大学 大学院総合人間自然科学研究科 専門職学位課程 教職実践高度化専攻）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	開かれた教育課程の開発と実践	1・後	2			○			1	1				兼1	共同※演習
		ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	1・後	2			○			1					兼1	共同※演習
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	教育方法と授業研究の理論と実践	1・前	2			○			2		1				共同※演習
		アクティブラーニングの理論と実践	1・前	2			○				1	1				共同※演習
	生徒指導及び教育相談に関する領域	変動する社会と生徒指導の理論と実践	1・前	2			○			1	1				兼1	共同※演習
		教育相談の理論と実践	1・前	2			○			1	2				兼1	共同※演習
	学級経営及び学校経営に関する領域	学校組織マネジメントの理論と実践	1・前	2			○			2						共同※演習
		学級経営の理論と実践	1・後	2			○			1	1				兼1	共同※演習
	学校教育と教員の在り方に関する領域	高知県の学校教育をめぐる現代的課題	1・後	2			○			2	1					共同※演習
		教育実践を科学するーデータサイエンスでみる高知県の教育課題ー	1・前	2			○			2	1					共同※演習
	小計(10科目)	—	20			—			6	5	1			兼5		
専門科目	学校運営コース	学校管理職の役割と実践	1・前		2		○			2					兼1	共同※演習
		学校組織開発の理論と実践	1・前		2		○								兼1	集中
		組織的な授業開発	1・後		2		○			1	1	1				共同※演習
		学校に求められるリスクマネジメント	1・後		2		○			1						オムニバス※演習
		学校組織開発のための学校評価	1・後		2		○								兼1	集中
		高知県の地域教育リソース開発	1・後		2		○			2						共同※演習
		学校組織開発演習	2・後		2			○							兼1	集中
	小計(7科目)	—		14		—			4	1	1			兼1		
教育実践コース	道徳教育の理論と実践	1・前		2		○			1	1				兼1	集中	
	ICT活用における授業設計	1・前		2		○								兼1	集中	
	小学校外国語活動と英語教育	1・前		2		○								兼1	※演習	
	児童生徒理解と人権教育	1・後		2		○				2					オムニバス集中	
	学級経営の開発的実践	1・前		2		○				1					※演習	
	授業研究開発と教育評価	1・後		2		○				1				兼2	共同※演習	
	理科学習指導法の理論と実践	1・前		2		○			1					兼2	共同※演習	
	理科教材研究・開発の理論と実践	1・後		2		○			1					兼4	共同※演習	
	理科教育マネジメントの理論と実践	2・前		2		○			1					兼1	共同※演習	
	授業方法演習	2・前		2			○			1				兼8	※講義	
	教材開発演習	2・前		2			○			1				兼10	※講義	
	授業デザイン	2・後		2			○							兼9	オムニバス・共同※講義	
小計(12科目)	—		24		—			3	5				兼23			

特別支援教育コース	特別支援教育の理論と推進・連携体制の構築	1・後	2	○		1						兼1	※演習	
	特別支援教育認知能力評価の基礎と実際	1・前	2	○								兼1	※演習	
	限局性学習症指導の理論と実際	1・後	2	○								兼1	※演習	
	注意欠如多動症評価の基礎と実際	1・前	2	○		1							※演習	
	注意欠如多動症指導の理論と実際	1・後	2	○		1							※演習	
	特別支援教育ライフスキル評価の基礎と実際	1・前	2	○								兼1	集中	
	特別支援教育ライフスキル指導の理論と実際	1・後	2	○								兼1	集中	
	自閉スペクトラム症評価の基礎と実際	1・前	2	○								兼1	※演習	
	自閉スペクトラム症指導の理論と実際	1・後	2	○								兼1	※演習	
	特別支援教育発達評価の基礎と実際	1・前	2	○								兼1	※演習	
	知的障害指導の理論と実際	1・後	2	○					1				共同 ※演習	
	肢体不自由評価の基礎と実際	1・前	2	○		1						兼1	共同 集中	
	肢体不自由指導の理論と実際	1・後	2	○								兼1	集中	
	病弱評価の基礎と実際	1・前	2	○								兼1	集中	
	病弱指導の理論と実際	1・後	2	○								兼1	集中	
	特別支援教育演習	2・前	2		○		2		1			兼1	共同 ※講義	
	小計 (16科目)	—		32		—	2		1				兼6	
総合実践力科目	学校運営コース	教育実践研究Ⅰ (学校運営)	1・通	2		○		6	5	1				共同 集中 ※講義
		教育実践研究Ⅱ (学校運営)	2・前	2		○		6	5	1				共同 集中 ※講義
		教育実践研究Ⅲ (学校運営)	2・後	2		○		6	5	1				共同 集中 ※講義
		総合実践研究 (学校運営)	2・後	2		○		6	5	1				共同 集中 ※講義
	教育実践コース	教育実践研究Ⅰ (教育実践)	1・通	2		○		6	5	1				共同 集中 ※講義
		教育実践研究Ⅱ (教育実践)	2・前	2		○		6	5	1				共同 集中 ※講義
		教育実践研究Ⅲ (教育実践)	2・後	2		○		6	5	1				共同 集中 ※講義
		総合実践研究 (教育実践)	2・後	2		○		6	5	1				共同 集中 ※講義
	特別支援教育コース	教育実践研究Ⅰ (特別支援教育)	1・通	2		○		2		2			兼1	共同 集中 ※講義
		教育実践研究Ⅱ (特別支援教育)	2・前	2		○		2		2			兼1	共同 集中 ※講義
		教育実践研究Ⅲ (特別支援教育)	2・後	2		○		2		2			兼1	共同 集中 ※講義
		総合実践研究 (特別支援教育)	2・後	2		○		2		2			兼1	共同 集中 ※講義
小計 (12科目)	—		24			8	5	3				兼1		
実習科目	学校運営コース	学校運営実習Ⅰ	1・通	4		○		6	5	1				共同 集中
		学校運営実習Ⅱ	2・前	6		○		6	5	1				共同 集中
	教育実践コース	教育実践実習Ⅰ (学部卒用)	1・通	4		○		6	5	1				共同 集中
		教育実践実習Ⅱ (学部卒用)	2・前	6		○		6	5	1				共同 集中
		教育実践実習Ⅰ (現職教員用)	1・通	4		○		6	5	1				共同 集中
		教育実践実習Ⅱ (現職教員用)	2・前	6		○		6	5	1				共同 集中

特別支援教育コース	特別支援教育実習Ⅰ（学部卒用）	1・通		4			○	2		2		兼1	共同集中
	特別支援教育実習Ⅱ（学部卒用）	2・前		6			○	2		2		兼1	共同集中
	特別支援教育実習Ⅰ（現職教員用）	1・通		4			○	2		2		兼1	共同集中
	特別支援教育実習Ⅱ（現職教員用）	2・前		6			○	2		2		兼1	共同集中
小計(15科目)		—		50		—		8	5	3		兼1	
合計（73科目）		—	16	150		—		8	5	3		兼33	
学位又は称号		教職修士（専門職）		学位又は学科の分野			教員養成関係						
修了要件及び履修方法							授業期間等						
<p>【修了要件】 共通科目20単位以上，専門科目8単位以上，総合実践力科目8単位、実習科目10単位の合計46単位以上を修得すること。</p> <p>【履修方法】 ・共通科目について，5つの領域から各4単位以上の計20単位を修得すること。 ・専門科目について，所属するコース（学校運営コース／教育実践コース／特別支援教育コース）に関する科目8単位を修得すること。 ・総合実践力科目について，所属するコース（学校運営コース／教育実践コース／特別支援教育コース）に関する科目8単位を修得すること。 ・実習科目について，所属するコース（学校運営コース／教育実践コース／特別支援教育コース）・対象（学部卒／現職教員）に関する実習Ⅰ～Ⅲの計10単位を修得すること。</p> 履修登録上限単位数 22単位（1学期あたり）							1学年の学期区分		2学期				
							1学期の授業期間		15週				
							1時限の授業時間		90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(総合人間自然科学研究科 専門職学位課程 教職実践高度化専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	<p>本科目では、「社会に開かれた教育課程」が求められる社会的背景を踏まえ、高知県における教育課題である「『社会に開かれた教育課程』の実現」に向けて、学校種間のつながりや教科横断的な教育内容の編成を検討する。また、「チーム学校」の概念や、地域・社会との連携、協働という視点を組み込んだ教育課程の実践例から、その利点と現状の課題を理解する。さらに、開かれた教育課程を開発し、持続させていくための管理職と各教員の責任を「カリキュラム・マネジメント」の視点から考察し、学校種間のつながり、教科横断型あるいは地域連携の視点を組み込んだ教育課程を実際に作成し、学校教育の目標に基づいた教育課程を開発する力を付けていく。</p> <p>11 石嶺ちづる 社会に開かれた教育課程の開発と実践が求められる政策的背景、全国的な実施状況の理解について主たる役割を果たす。</p> <p>23 小田 通 具体的なカリキュラムの事例検討や、高知県の教育課題の理解について主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
	ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	<p>「ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践」では教育内容の広範かつ一般的な計画としての教育課程について、支援が必要な子どもも包括したユニバーサルデザインとして実践する方法について学ぶ。具体的には「特別の教育課程」の定義と内容を理解した上で、実態把握法、指導法、教育評価法、個別の指導計画立案方法、教育評価による指導効果の検証方法について基礎的知識や力量の獲得をめざす。</p> <p>講義では、共通科目として幼・小・中・高および特別支援学校の所属学校種の違いや現職教員院生と学部卒の院生を考慮し、事例を用いた講義、対話型の講義構成、随時の文献提示による共通の知識理解に基づいた講義を行うように、最新の事例研究の知見を受講生が調べてレポートして検討するという形態も取り入れつつ、講義を構成する。</p> <p>本授業では、特別支援教育対象児も含めた多様な子どもに対して授業を行う、指導者としての力量形成として、個と集団を指導する力と教育課程をキーワードとし、受講生が各々の関心に従って実践的知識の習得をめざす。</p> <p>2 是永かな子 全体の総括・調整を行う。</p> <p>24 橋本典子 実務経験を踏まえて、教育現場からの視点を提供することで主な役割を務める。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 24時間 演習 6時間</p>
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	<p>アクティブラーニングの理論と実践</p> <p>本科目では、いわゆるアクティブラーニング（活動的・協同的・省察的な学び）に関する理論や実践について学ぶ。</p> <p>アクティブラーニングを基礎づけている資質・能力論や評価論や教師教育論や学校論だけではなく、授業における行為やコミュニケーションに関する実証的研究の成果、小集団学習等に関する実証的研究の成果、そして「学びの共同体」等の近年の学校現場における取り組みも扱い、教育方法学における多様な観点からアクティブラーニングについて学ぶ。</p> <p>授業では、毎回、ワークシートを用いたグループワークに基づいて考察を行う。検討対象について、まず自身の最初の考えを記述する。そして、グループ内でそれを共有し合ったうえでコメントをしよう。その際に、各々の最初の考えや、各々から各々へのコメントを、各々が丁寧に聴き取ったうえで自身のことばで記述する。なお、授業冒頭で授業者が提供した論点や話題も、各々が簡単に書き留めたうえで自身の考えの記述や他者へのコメントに反映させる。授業終盤または授業後に、各自が、上記のグループワークに基づく新たな自身の考えを別紙に記述する。</p> <p>3 中野俊幸 全体の総括・調整を行う。</p> <p>4 野村幸代 アクティブラーニングの理論的背景や各種理論の解説において主たる役割を果たす。</p> <p>8 古市直樹 小集団学習や授業に関する学術的な知見（行為・身体・物・空間のあり方やコミュニケーションに関する実証的研究の成果等）を扱う上で主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 24時間 演習 6時間</p>

	ICTを活用したデジタル教育の理論と実践	<p>ICTを用いた教育は我が国においては始まったばかりである。ICTを用いた教育の理論と実践について学ぶとともに、学校の設備にも差がある中で、さまざまな環境の学校を想定して具体的な授業実践を考えることを目標とする。</p> <p>具体的には、国内のICTを利用した教育実践、さらに海外のICTを利用した教育実践の分析と検討を通し、ICTを利用した教育の在り方について、その目的と効果、児童生徒の成長段階にあわせた活用の効果を考察する。また、様々な機器の使用と利用の工夫を、実習を交えて学ぶ。</p> <p>これらの結果をもとに、具体的な教科指導場面を想定した模擬授業の実施とその検討を行うことで、多くの学校で実践可能なICTを利用した教育法について考える。</p> <p>3 中野俊幸 算数・数学科授業の検討と各種ICT機器の利用 9 岩城裕之 全体と統括調整を行う。国語科授業の検討 12 加納理成 各種ICT機器の利用 14 中城 満 理科授業の検討 15 野中陽一朗 ICTを利用した授業の実践の検討 16 服部裕一郎 算数・数学科授業の検討</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 24時間 演習 6時間</p>
生徒指導及び教育相談に関する領域	変動する社会と生徒指導の理論と実践	<p>本科目では、多様・複雑化する社会に生きる児童生徒の全人的な成長・発達を促進するために、いじめ、不登校、自殺、学級崩壊や校内暴力など教育的諸問題の解決に向けて、生徒指導が担う役割や課題について検討する。そのために、生徒理解を深めるための協議や事例検討を行う。さらに学校内はもとより地域や関係専門機関等における適切な連携、協働体勢を構築し推進していくことの意義や具体的方法について考察する。</p> <p>それにより、学校内外の情報を迅速に収集し、適切に生徒の状態や課題を理解する力を身に付ける。さらに生徒指導の様々な方法を熟知し、明確な生徒指導方針のもと、地域や関係専門機関と行動連携しながら効果的な教育活動を展開できる力を身に付ける。</p> <p>17 横山卓 変動する社会状況の検討について主たる役割を果たす。 19 福住紀明 いじめ問題や生徒指導と学級経営、非行・不登校の具体的な事例の検討において主たる役割を果たす。 21 岡田倫代 全体の総括・調整を行う。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
	教育相談の理論と実践	<p>本科目では、論文抄読を中心にしながら、教育相談に関わる様々な心理・行動・身体的問題について学習する。抄読においては、論文の概要を理解するだけでなく、論文の中で取り上げられる各種疾患や支援技法、研究手法等についてもその都度詳しく取り上げていくこととする。実際の事例や取組、実験・調査を通じて様々な問題や支援技法、研究手法について学ぶことにより、高い学習効果が期待できる。これらを通して、様々な教育臨床的問題を理解・把握し対応する力と、それらを学級経営や学校経営に活かしていく力を育成する。</p> <p>1 古口高志 教育相談に関する全体的な内容、子どもたちの様々な教育臨床的問題の内容やアセスメント方法の指導について主たる役割を果たす。 19 福住紀明 教育相談と生徒指導との関連、ならびに子どもたちの自尊感情・自己肯定感の問題に関する指導について主たる役割を果たす。 20 三ツ石行宏 外部組織との関わりを生かした問題の予防や問題軽減のための支援技法の指導について主たる役割を果たす。 21 岡田倫代 全体の総括・調整を行う。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 18時間 演習 12時間</p>

学級経営及び学校経営に関する領域	学校組織マネジメントの理論と実践	<p>分権的教育改革が進展する中で、学校には自律的に学校改善を行っていく力が求められ、組織改革・経営改革が大きく進展を始めている。学校が自己改善を進め教育の質を向上させていくためには、副校長や主幹教諭、指導教諭の新設といった学校組織改革を効果的に活用することや学校経営に組織マネジメントを取り入れることで、学校の組織的力を向上させていくことが必要不可欠である。</p> <p>こうした学校組織マネジメントに関する知識と技術は、校長や教頭などの管理職だけに必要な能力ではなく、すべての教職員に必要な能力である。また、これからの学校運営においては、保護者や地域住民の学校運営への参画を求め、地域の特性を生かした特色ある開かれた学校を形成していくことも求められている。</p> <p>本授業では以上のようなテーマに基づき、学校組織改革に関する政策動向、学校組織・学校経営に関する制度、学校経営と教育行政の関係、学校経営への保護者地域住民の参画、海外の教育改革等の検討を通して、現代の学校において必要とされる組織マネジメントを実践できる力と、開かれた学校づくりを進めていく力を身につけることを目標とする。</p> <p>授業においては、講義と併せて受講生の勤務校の学校経営計画の検討・改善を通してこれらの力を育成する。</p> <p>6 柳林信彦 全体の統括・調整を行う。</p> <p>24 橋本典子 高知県の取組について担当するとともに、授業では地域との連携に基づく視点で主な役割を務める。</p> <p>34 長岡幹泰 高知県の取組について担当するとともに、授業では管理職・行政職経験に基づく視点で主な役割を務める。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 18時間 演習 12時間</p>
	学級経営の理論と実践	<p>学級経営の目的と方法を踏まえ、学級集団の理解とその中での個々の発達課題を視野に入れた準拠集団の形成過程について理解する。また、学級経営の在り方について、講義や文献講読、事例検討やグループワークを通して学び、教育現場において学級経営に関わる教育活動を実践する際の意義や注意点、学級における危機管理の在り方等について、理論的・実践的な視点から考察する。さらに、各自の学級経営プランに基づいたグループワークの効果的な取組に対する提案・討論を行う。</p> <p>7 柴 英里 学級経営に関する理論的な視点からの指導において主な役割を務める。</p> <p>15 野中陽一朗 児童生徒の心理発達の視点からの指導において主な役割を務める。</p> <p>21 岡田倫代 学級経営に関する実践的な視点からの指導において主な役割を務める。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 18時間 演習 12時間</p>

	学校教育と教員の在り方に関する領域	<p>小規模校・複式学級等に関する高知県の地域的特性、中学校の学力問題や児童生徒の思考力・判断力・表現力の弱さなどの高知県独自の課題について理解し、課題の要因を分析する。また、高知県の教育課題について、学校教育運営、学級経営や学習指導などの教育実践、特別支援教育の視点で、その実践事例について考察・検討を行う。</p> <p>その上で、高知県における教育課題解決のためのプランを自身で構想・立案し、発表・演習を行うことによって、教育実践や特別支援教育に関する学習指導力と、高知県における教育課題を解決するための戦略マネジメント力を養っていく。</p> <p>5 松本秀彦 特別支援教育に関する部分において主たる役割を果たす。</p> <p>13 川俣美砂子 就学前段階の教育実践に関する部分において主たる役割を果たす。</p> <p>22 森 有希 小・中学校の教育実践に関する部分において主たる役割を果たす。</p> <p>34 長岡幹泰 学校教育運営に関する部分において主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
	教育実践を科学するーデータサイエンスでみる高知県の教育課題ー	<p>高知県の教育課題解決に向けて、データを利活用しながら課題発見的に取り組むために必要な力量形成を図ることを目的とする。</p> <p>授業では、高知県の教育/教育課題に関するデータを用いながら、科学的・統計的手法を中心に、情報収集の仕方や、調査・分析方法、研究成果のまとめ方までを含む、エビデンスに基づいた教育研究を行うための基礎を養う。</p> <p>6 柳林信彦 全体の総括・調整を行う。</p> <p>7 柴英里 データを利活用した教育課題分析において主たる役割を果たす。</p> <p>18 袴田綾斗 科学的・統計的手法の解説において主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 18時間 演習 12時間</p>
専門科目	学校マネジメントコース	<p>現在、高知県内の学校は、学力向上やいじめ、不登校等の生徒指導上の諸問題を始めとし、様々な課題に直面している。また知識基盤社会に対応する学びの構築を始め、児童生徒が変化、進展の激しいこれからの社会を生き抜くために必要とされ、期待される力を身に付けてもらうための学校の在り方も問われている。これらの課題や要請に応える学校づくりを行うために学校管理職はどのような役割を担うのかを、学校経営の実際を分析しながら、課題解決の方法を見出し、これからの時代に応えられる学校経営実践力を身に付けていく。</p> <p>6 柳林信彦 全体の総括・調整を行う。</p> <p>34 長岡幹泰 高知県における現状や課題の解説と学校管理職経験に基づく視点において主な役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
	学校組織開発の理論と実践	<p>学校は、企業体のように変化するとか挑戦するということが自動化されていない。むしろ、児童生徒へのリスクを回避するために、不易を重んじる傾向にあるし、公教育機関として制度的に存在が保障されてきた。しかし、現代の学校は、地球温暖化や縮小社会状況の進展、ICTやAIの発達など急激な社会変動に晒されており、これまで以上に、その変化に不断に適応していく組織体であることが厳しく問われるようになってきた。こうした状況を受けて、高知県においても「土佐の教育改革」をはじめ、学校管理職に対する学校組織マネジメント研修の実施、主幹教諭等の配置や保幼小中連携事業の推進などに取り組んできた。しかしなお、その効果は必ずしも十分に発揮されているとは言い難い状況にある。</p> <p>そこで、本科目は、学校を組織に組み上げていくために必要な基礎的な理論を講じ、これからのスクール・リーダーに求められる知識とスキルの向上を果たす。</p>	<p>集中</p>

<p>保幼小中高の連携による キャリア発達</p>	<p>キャリアとは、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねのことであり、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるキャリア教育を通して、キャリアの発達は促される。</p> <p>産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化等は、子どもたち自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしており、子どもたちは、自分の将来を考えるのに役立つ理想とする大人のモデルが見付けにくく、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことが容易ではなくなっている。</p> <p>本授業では、子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができるようにするため、就学前からの、発達段階に応じたキャリア教育そしてそれに伴うキャリア発達について探っていく。家庭や地域と連携した体験的なキャリア学習とは何か。学校段階ごとに設定された目的に沿って、保育・教育課程に位置付けられた計画的なキャリア教育で実施される保幼小中高連携によるキャリア発達について考える。</p> <p>11 石嶺ちづる キャリア教育、キャリア発達について、小学校段階に関する部分について主たる役割を果たす。</p> <p>13 川俣美砂子 キャリア教育、キャリア発達について、就学前段階に関する部分について主たる役割を果たす。</p> <p>21 岡田倫代 キャリア教育、キャリア発達について、中学、高校段階に関する部分について主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>学校に求められるリスクマネジメント</p>	<p>現代日本の社会は、様々なリスクと隣り合わせであり、まさにリスク社会とすることができる。教育現場においても体罰やいじめなどの児童生徒の生徒指導に潜むリスク、保護者や地域住民の多様なニーズに関わるリスク、学校防災や学校安全にかかわるリスク、教育活動上の事故などのリスクなど、様々なレベルのリスク対応が求められている。</p> <p>以上を踏まえ、本授業では、学校や教育に関連する法律の理解や教育判例の考察を通して、学校事故やトラブルへの対応、教師の注意義務や加害/被害児童への教育的配慮の在り方、学校の裁量範囲などについての理解を深め、それらを自分なりに考え、実践しうる能力を養うことを目的とする。</p> <p>授業においては、前半部では、生徒指導・学校事故・教員の処遇などに関する教育判例を取り上げ、その背景や要因を分析・検証しながら、学校のリスクマネジメントの基本を明らかにしていく。後半部分では、学校事故や重大インシデントが発生した場合の、保護者対応や関係機関、報道機関等への対応の仕方など、リスクマネジメントのための外部機関との関わりについて、具体的事例をもとに考察していく。</p> <p>最終的には、得られた知見を活用した受講生間のディスカッションを通して、勤務校の取り組みを捉え直し、より効果的なリスクマネジメント計画を立案する。</p> <p>本授業では、個人による判例調べや班別での事例研究やロールプレイング等を積極的に活用し、受講生の主体的な学びを促していく。</p> <p>6 柳林信彦 学校事故や管理運営に関する事例検討において主たる役割を果たす。</p> <p>11 石嶺ちづる 生徒指導に関する事例検討において主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 22時間 演習 8時間</p>
<p>学校組織開発のための学校評価</p>	<p>日本の初等中等学校は長く制度依存し、さらには慣習依存し、その結果、自らの営みを反省的に捉え返し、成果を確かめ、次なるステップを実績に応じて組み上げていくというマネジメント・サイクルを確立しえてこなかった。それは、学校が経営体としての自律性を十分に有してこなかったこと以上に、そもそも学校が経営機能を発揮しうるだけの組織になりきれていないことに起因する。文部科学省が示している「学校評価ガイドライン」において、「学校の目標設定」や「全教職員の参加」を説いているのも、そうした問題認識に基づくものと理解される。一方、高知県において第1期「土佐の教育改革」において「授業評価システム」の導入が試みられたが、やはり定着に至らなかった。その反省のもと、高知県教育委員会では、高知県版の学校評価ガイドラインの策定など、各校への学校評価の普及・定着を図る試みを重ねてきたが、なお多くの課題を残している。</p> <p>そこで、本科目では、高知県に適した学校評価システムの確立を企図し、学校がマネジメント・サイクルを機能させていくプロセス設計を果たし、組織的に取り組む学校評価のあり方を探究する。</p>	<p>集中</p>

<p>学級経営の開発的実践</p>	<p>学級集団アセスメントと個へのアセスメントの方法としての観察法、調査法、面接法について理解する。アセスメントを基に、学級づくりのより効果的なストラテジーをどのように立てていくか、シミュレーションシートと蓄積データの活用法について学び、各自の学級経営プランの提案・討論はもちろん、あらゆるタイプの学級に対するストラテジーの立て方を提案できるようにすることで、学校現場での学級経営スーパーバイズができる力を身につけられるようワークも取り入れて行う。</p>	<p>※演習 講義 20時間 演習 10時間</p>
<p>組織的な生徒指導と人権教育</p>	<p>高知県の教育課題である不登校対策等の生徒指導上の諸課題への対応については、学校生活への適応や学習意欲の喚起、仲間づくりなど多方面からの総合的、組織的な対応が求められる。こうした生徒指導上の諸課題に対して、生徒指導上の3機能を効果的に生かした教育活動を教科横断的に実施したり、外部人材と連携した教育活動を行ったりする組織的な対応を学ぶ。</p> <p>また、人権教育については、同和教育から人権教育へと再構築されるなかで、厳しい環境に置かれた児童生徒が表出する問題行動や自己否定的な態度に対して、どのような支援や教育実践が行われてきたのかを理解することができるよう、講義や実践事例に基づく協議を行う。また、マイノリティに対する排除の現状から、差別や排除の根底にある意識を理解するとともに、学校現場におけるいじめ問題と関連させ、児童生徒の人権を尊重した学校環境づくりに向けた具体的な方法等を考察し、一人一人を大切にされた教育活動を学校全体で組織的に展開できる力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>第1回 (21 岡田倫代) ガイダンス：生徒指導の概要</p> <p>第2回 (21 岡田倫代) 生徒指導に関するマイクロレベルの事例紹介 【校内組織体制】</p> <p>第3回 (21 岡田倫代) 生徒指導に関するメゾ・マクロレベルの事例紹介 【外部連携・協働体制】</p> <p>第4回 (21 岡田倫代) 生徒指導に関する連携協働実践の効果検証</p> <p>第5回 (21 岡田倫代) 生徒指導の3機能を生かした教育開発 ①自己決定力の育成に焦点を当てて</p> <p>第6回 (21 岡田倫代) 生徒指導の3機能を生かした教育開発 ②自己存在感の向上に焦点を当てて</p> <p>第7回 (21 岡田倫代) 生徒指導の3機能を生かした教育開発 ③共感的な人間関係の構築に焦点を当てて</p> <p>第8回 (21 岡田倫代) 組織的な生徒指導の開発的実践</p> <p>第9回 (25 大西雅人) ガイダンス：同和教育と人権教育の歴史と大切にされてきたこと</p> <p>第10回 (25 大西雅人) 同和教育や人権教育における実践（長欠・不登学問題を中心に）</p> <p>第11回 (25 大西雅人) 同和教育や人権教育における実践（集団づくりにおける実践）</p> <p>第12回 (25 大西雅人) 同和教育や人権教育における実践（自尊感情の育成に向けた実践）</p> <p>第13回 (25 大西雅人) 現存する人権問題といじめ問題について</p> <p>第14回 (25 大西雅人) 人権が尊重される環境づくりに向けたプランの共有と協議（1）</p> <p>第15回 (25 大西雅人) 人権が尊重される環境づくりに向けたプランの共有と協議（2）</p>	<p>オムニバス ※演習 講義 20時間 演習 10時間</p>

<p>高知県の地域教育リソース開発</p>	<p>変化の激しい時代において、学校を取り巻く環境は厳しさを増す一方であり、社会の要請に応えるには従前の学校経営では応じられなくなってきた。高知県においても学校教育に内在する様々な問題を捉えても、その解決には、学校内部の取り組みだけでは到底解決できない状況が生まれている。また、子供たちに、これからの社会において求められる、資質や能力を身に付けてもらうためには、多様な知識や経験を持つ人材を始めとし地域の資源、フィールドを生かすことが重要である。加えて、地域振興や防災等の観点からも、学校が地域の発展や安全にどのように参画できるかも問われている。</p> <p>こうしたことから、これらの課題や要請に応える学校づくりを行うために、実際の学校経営を分析しながら、地域の様々な資源をどのように学校経営に生かすことができるかを実際の学校経営に照らして小・中学校のほか幼児教育、特別支援教育、社会教育などの様々な観点から考察する。</p> <p>17 横山卓 社会教育学の事例・実践の検討・指導において主な役割を果たす。</p> <p>20 三ツ石行宏 幼児教育の事例・実践の検討・指導において主な役割を果たす。</p> <p>24 橋本典子 特別支援教育の事例・実践の検討・指導において主な役割を果たす。</p> <p>34 長岡幹泰 全体の統括・調整を行う。 小・中学校の事例・実践の検討・指導において主な役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>学校組織開発演習</p>	<p>1年次で学んだ共通科目、とりわけ「学校組織マネジメントの理論と実践」、さらに「学校組織開発の理論と実践」をはじめとした学校マネジメントコース専門科目と、「学校マネジメント実習Ⅰ」及び「同Ⅱ」での学修を基礎に、より実践的な学校組織開発を推進する着眼点と推進ポイントを、ワークショップやグループ・ディスカッションを通じて理解し、効果的な教育的リーダーシップの発揮の仕方を修得して、優れた学校マネジメントリーダーとしての資質・能力を向上させる。</p>	<p>集中</p>
<p>授業実践コース</p> <p>道徳教育の理論と実践</p>	<p>道徳教育及び道徳科の趣旨、内容、指導方法、道徳教育に関する理論的背景や道徳性の発達に関する理論等についての理解をもとに、効果的な道徳教育を創造し展開するための協議や事例検討、指導計画や学習指導案の作成及び模擬授業等の演習を行う。その際、高知県における生徒指導上の課題などの現状と分析を踏まえ、生徒指導の取組を含めた道徳教育に関する多様な実践事例についても考察・検討する。</p> <p>その上で、道徳教育における課題の解決に向けて、カリキュラムマネジメントや学習指導についての具体的な実践を構想し、発表・演習を行うことによって、道徳教育のカリキュラムマネジメント力や道徳科の学習指導に関する実践力を養っていく。</p>	<p>※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>就学前からの発達と教育実践</p>	<p>本科目では、就学前、すなわち乳幼児期の心身の発達や社会性の発達に關しての理解を深めるとともに、乳幼児の発達の過程や特性を踏まえた指導・支援計画を立案し、展開できる実践的指導力を身につけることを目的とする。また、乳幼児教育において重要となる、保護者支援、多職種連携、社会資源活用などについても理解を深めていく。授業では、通常講義だけでなく、高知県における保育・幼児教育の現状も念頭に置きながらの協議や事例検討を多く取り入れていくこととする。</p> <p>1 古口高志 全体の総括・調整を行う。</p> <p>13 川俣美砂子 乳幼児の発達の過程や特性を踏まえた指導・支援計画の立案と実践に關する指導について主たる役割を果たす。</p> <p>20 三ツ石行宏 保護者支援、多職種連携、社会資源活用などに關する指導について主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>

<p>教育評価から捉える子どもの心理と理解</p>	<p>本科目では、子どもの学力・学習状況や、思考力・判断力・表現力等を多角的に評価するための様々な教育心理学的評価、および、子どもの心理・生理・行動面を客観的に捉えるための様々な臨床・発達心理学的評価について学習する。また「評価」と不可分な関係にある「測定」、すなわち統計関連の基礎事項についてもとりあげる。さらに、これら心理学的な観点だけでなく、よりマクロな社会学的観点からも子どもの状態を捉えていく。これらの内容を通して、子どもに関わる様々な情報を偏りなく正確に理解する力を育成する。</p> <p>1 古口高志 全体の総括・調整を行う。</p> <p>15 野中陽一郎 子どもの学力・学習状況等を捉えるための教育心理学的評価や、評価と関わる測定に関する指導について主たる役割を果たす。</p> <p>17 横山 卓 社会学的観点から子どもの状態を捉える方法に関する指導について主たる役割を果たす。</p> <p>19 福住紀明 子どもの心理・生理・行動面を客観的に捉えるための様々な臨床・発達心理学的評価に関する指導について主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>授業におけるICT活用の開発的実践</p>	<p>ICTを活用した教育について、先進的な事例を分析するとともに、自らコンテンツの企画ができ、学校現場で他の教員に企画・助言できるようになることを目指す授業である。</p> <p>まず、国内外を問わず先進的な事例を中心に分析することで、ICTを利用した教育の望ましい姿を学ぶ。次に、具体的な授業場面を想定した指導案の作成と模擬授業、教材（コンテンツ）の開発を行う。この授業ではさまざまな教科でのICT活用を横断的に学ぶことを特に重視する。これによって、学生自らが専攻する教科以外でのICT活用について理解し、学校現場でICT活用の中核的な役割を果たせるようになることを目指す。</p> <p>3 中野俊幸 算数・数学科における実践分析とICTのコンテンツ開発</p> <p>4 野村幸代 英語科における実践分析</p> <p>8 古市直樹 発達段階に応じたICT活用方法</p> <p>9 岩城裕之 国内外の実践分析と国語科における実践分析</p> <p>12 加納理成 ICTのコンテンツ開発</p> <p>16 服部裕一郎 算数・数学科における実践分析</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>高知県の教育実践の実態把握と教育方法の開発</p>	<p>高知県の学校現場の実態を、院生自身の経験に基づいて、また、県外・国外の現状や各地の教育実践史に照らしつつ、教育実践における課題の明確化のために構造的に把握する。</p> <p>そして、把握された実態に即した具体的な教育方法および教育方法開発のあり方について、学習活動の様々な特性を踏まえて授業研究やカリキュラム研究の知見から学ぶ。</p> <p>8 古市直樹 授業研究やカリキュラム研究に関する一般的な議論において主たる役割を果たす。</p> <p>34 長岡幹泰 高知県の教育実践の実態に関する事例提供において主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>理科学習指導法の理論と実践</p>	<p>学習指導要領を踏まえた理科の授業づくりの実践的方法について学ぶ。実際に教育経験のある現職教員受講生が中心となって資料を準備し、他の受講生とともにディスカッションやレポートによる意見交換を通して、理科の学習指導法の理論研究や授業展開のための実践力の伸長を図る。</p> <p>14 中城 満 小学校における理科教育で主な役割を務める。</p> <p>23 小田 通 理科教育の実践的側面に関して主たる役割を果たす。</p> <p>37 草場 実 中学校における理科教育で主な役割を務める。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>

理科教材研究・開発の理論と実践	<p>学習指導要領のねらいを深く理解するとともに、児童生徒が自然の事物に興味関心を深め、目的意識をもって探究する能力の基礎と態度を身に付けるための教材研究・開発の在り方について、その要素を見いだし、それらの実践的能力を育成する。</p> <p>14 中城 満 理科教育の小学校分野を主に担当する。</p> <p>23 小田 通 理科教育の中学校分野を主に担当する。</p> <p>31 赤松 直 地学分野の教材開発を担当する。</p> <p>32 伊谷 行 生物学分野の教材開発を担当する。</p> <p>35 原田哲夫 生物学分野の教材開発を担当する。</p> <p>38 西脇 芳典 化学分野の教材開発を担当する。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
理科教育マネジメントの理論と実践	<p>学習指導要領のねらいを深く理解し、高知県の学力向上における課題を明らかにした上で、自由研究や野外観察会、校内環境整備なども含めた理科教育活動全般を通して子どもが自然の事物・現象や科学的な事項に興味関心を深め、目的意識をもって探究する能力の基礎と態度を身に付けるための理科教育マネジメントの在り方について、危機管理等を含めてその要素を見いだし、それらの実践的能力を育成する。</p> <p>14 中城 満 理科教育の理論的側面に関して主たる役割を果たす。</p> <p>23 小田 通 理科教育の実践的側面に関して主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
理科授業分析・改善演習	<p>学習指導要領のねらいを深く理解した上で、理科授業を批判的に検討するための観点について授業分析などを通して修得する。理科の授業改善のための重要な視点として、授業実践・分析を中心に据え、多様な学習方法との関連を明確にしていく。また、具体的に学習指導案の作成等を通して、課題設定や板書、ノート指導等具体的な授業改善の方法を演習を通して探究し、それらの実践的能力を育成する。</p> <p>14 中城 満 理科教育の理論的側面に関して主たる役割を果たす。</p> <p>23 小田 通 理科教育の実践的側面に関して主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
英語科学習指導法の理論と実践	<p>学習指導要領を踏まえた英語科の授業づくりについての指導理論や実践的方法について学ぶ。本講義では、指導理論の教授に加え、実際に教育経験のある現職教員受講生が授業実践をもとに資料を準備し、他の受講生とともにディスカッションやレポートによる意見交換を通して、英語科の学習指導法の理論研究や授業展開のための実践力の伸長を図る。</p> <p>また、英語科の学習指導の工夫に当たっては、タブレット端末等のICT機器を活用し、教科のねらいに即して児童生徒の学習意欲を喚起したり、対話活動を促進したりする中で、英語科における深い学びを実現することのできる工夫ある授業実践ができる力を育成する。</p> <p>4 野村幸代 英語科教育の理論的側面に関して主たる役割を果たす。</p> <p>28 竹崎優子 英語科教育の実践的側面に関して主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
英語科教材研究・開発の理論と実践	<p>児童生徒が英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することができる授業づくりのための教材研究・開発の在り方について、その要素を見いだし、それらの実践的能力を育成する。</p> <p>英語科においては、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して実際にコミュニケーションを行う学習の充実が求められている。こうした学習活動を充実させるための教材はいかなるものなのかについて、児童生徒の発達の段階を踏まえながらICT等も活用したデジタル教育の観点からも教材を研究・開発していける教材開発力を養っていく。</p> <p>4 野村幸代 英語科教育の理論的側面に関して主たる役割を果たす。</p> <p>28 竹崎優子 英語科教育の実践的側面に関して主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>

<p>英語科教育マネジメントの理論と実践</p>	<p>学習指導要領のねらいを深く理解し、高知県の学力向上における課題を明らかにした上で、外国語の背景にある文化に対する理解を深めるなどして、英語によりコミュニケーションを図ろうとする態度を養っていくための英語科教育マネジメントの在り方についてその要素を見いだし、それらの実践的能力を育成する。 特に、英語科教育マネジメントに当たっては、カリキュラムの計画、実践、評価、改善のPDCAサイクルで教科経営を見直す方法について学んだり、外部人材等を活用しながら体験的な学びの中で教科の理解を深めたりすることができるカリキュラムマネジメント力についても養っていく。</p> <p>4 野村幸代 英語科教育の理論的側面に関して主たる役割を果たす。 28 竹崎優子 英語科教育の実践的側面に関して主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>英語科授業分析・改善演習</p>	<p>学習指導要領のねらいを深く理解した上で、英語科授業を批判的に検討するための観点について授業分析などを通して修得する。英語科の授業改善のための重要な視点として、授業実践・分析を中心に据え、多様な学習方法との関連を明確にしていく。また、具体的に学習指導案の作成等を通して、課題設定や板書、ノート指導等具体的な授業改善の方法を演習を通して探究し、それらの実践的能力を育成する。 授業改善に当たっては、作成した学習指導案をもとに模擬授業等による実践演習を行って、それを受講者が批判的、開発的な視点で吟味するなかで児童生徒の発達段階を踏まえ、教科における深い学びを追究し得る具体的な改善策を見いだしていけるようにする。</p> <p>4 野村幸代 英語科教育の理論的側面に関して主たる役割を果たす。 28 竹崎優子 英語科教育の実践的側面に関して主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>算数・数学科の学習指導の理論と実践</p>	<p>数学教育学の基礎理論および算数・数学科学習指導に関連する学習心理学や教育学の諸理論を理解し、それを基に国内外の算数・数学科学習指導の問題点と課題を明らかにする。また、改善方法について議論する。</p> <p>3 中野俊幸 算数・数学科の理論の解説に関して主たる役割を果たす。 16 服部裕一郎 算数・数学科の学習指導の実践事例（主に中・高等学校）の提供に関して主たる役割を果たす。 18 袴田綾斗 算数・数学科の学習指導の実践事例（主に小学校）の提供に関して主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>算数・数学科の教材研究の理論と実践</p>	<p>算数・数学科の教材について数学の専門的視座から数学的意義を理解し、数学的に考える資質・能力を育成するための陶冶材としての教育的価値を考察する。また、教材の数学的発展性・応用可能性を活かした授業実践について議論する。</p> <p>12 加納理成 教材研究の理論の解説に関して主たる役割を果たす。 33 佐藤淳郎 高等学校における教材研究事例の提供に関して主たる役割を果たす。 36 山口俊博 小・中学校における教材研究事例の提供に関して主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>

<p>算数・数学科の教材開発と授業デザインの理論と実践</p>	<p>算数・数学科の従来の教材を数学的発展性や子どもの活動性から再構成したり、数学的素材から新たに教材化したりして教材を開発し、開発した教材から構成できる数学的活動や数学的学習場を探求する。また、その授業をデザインし、授業実践して教育的有効性を議論する。</p> <p>3 中野俊幸 全体の総括・調整を行う。</p> <p>12 加納理成 授業デザインの理論的側面に関して主たる役割を果たす。</p> <p>16 服部裕一郎 授業デザインの実践事例（主に中・高等学校）の提供に関して主たる役割を果たす。</p> <p>18 袴田綾斗 授業デザインの実践事例（主に小学校）の提供に関して主たる役割を果たす。</p> <p>33 佐藤淳郎 数学的素材の提供に関して主たる役割を果たす。</p> <p>36 山口俊博 数学的素材（主に幾何学分野）の提供に関して主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>算数・数学科の授業研究と授業改善演習</p>	<p>算数・数学科の授業研究の理論的モデルや効果的実施方法を理解し、授業研究のサイクルを実施して授業改善を演習する。演習を通して、算数・数学授業の実践的指導力を向上させ、算数・数学授業実践に対する指導・助言の能力を養成する。</p> <p>3 中野俊幸 全体の総括・調整を行う。</p> <p>12 加納理成 授業研究の理論的モデルの構築に関して主たる役割を果たす。</p> <p>16 服部裕一郎 授業改善事例（主に中・高等学校）の提供に関して主たる役割を果たす。</p> <p>18 袴田綾斗 授業改善事例（主に小学校）の提供に関して主たる役割を果たす。</p> <p>33 佐藤淳郎 授業の批判的検討に関して主たる役割を果たす。</p> <p>36 山口俊博 授業の批判的検討（主に幾何学分野）に関して主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>国語科学習指導法の理論と実践</p>	<p>学習指導要領のねらいを理解するとともに、学習指導要領を踏まえた国語科の授業づくりの実践的方法について学ぶ。実際に教育経験のある現職教員受講生が資料を準備し、「素材・教材研究」「指導法研究」の2つの視点から他の受講生とともにディスカッションやレポートによる意見交換を通して、国語科の学習指導法の理論研究や授業展開のための実践力の伸長を図る。</p> <p>9 岩城裕之 全体の調整 国語科における素材・教材研究</p> <p>26 田中元康 国語科指導法の演習担当</p> <p>27 瀬戸保彦 高知県内の実践事例に関する指導法の演習担当</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>国語科教材研究・開発の理論と実践</p>	<p>国語科の目標として、児童生徒が言語による見方・考え方を働かせること、言語活動を通して国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することができることが求められている。本授業では、これらを達成する授業づくりのための教材研究・開発の在り方について、その要素を見だし、それらの実践的能力を育成する。具体的に説明文と物語文教材を設定し、その分析を行うことを演習形式で実施するとともに、授業を構想する。</p> <p>9 岩城裕之 全体の調整 素材研究・教材研究の方法</p> <p>26 田中元康 国語科教材の演習担当</p> <p>27 瀬戸保彦 高知県内の実践事例教材の演習担当</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>

<p>国語科教育マネジメントの理論と実践</p>	<p>学習指導要領のねらいを深く理解し、高知県の学力向上における課題を明らかにした上で、学年進行に注目した「縦」と、「読む・書く・話す・聞く」の各能力相互の「横」の2つの観点で国語科のカリキュラムの在り方について考察する。さらに国語科で育成する能力と他教科との連携も視野に入れた国語科のカリキュラムの在り方についても考察する。</p> <p>具体的には、教科書教材をもとに、小学校6年間、中学校3年間の国語科のカリキュラムの在り方を演習形式で検討するとともに、国語科と総合の時間を含めた他教科との連携の在り方についても演習形式で検討する。</p> <p>9 岩城裕之 他教科との連携について 26 田中元康 国語科のカリキュラムについて 27 瀬戸保彦 高知県内の実践事例に関する国語科のカリキュラムについて</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>国語科授業分析・改善演習</p>	<p>学習指導要領のねらいを深く理解した上で、国語科の授業改善のための重要な視点として授業実践の分析を中心に据え、国語科授業を批判的に検討するための観点を修得することを目的とする。</p> <p>具体的には素材研究・教材研究・指導法研究のそれぞれについて、授業実践例を集め分析を行う。また、具体的な学習指導案の作成等を通して、課題設定や板書、ノート指導等具体的な授業改善の方法を演習を通して探究し、それらの実践的能力を育成する。</p> <p>9 岩城裕之 素材研究の検討 26 田中元康 国語科の教材研究、指導法の検討 27 瀬戸保彦 高知県内の実践事例に関する国語科の教材研究、指導法の検討</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>社会科学学習指導法の理論と実践</p>	<p>社会科（および地理歴史科と公民科）における学習指導要領を踏まえた学習指導の理論と実践方法について学ぶ。本科目では、指導理論を教授するとともに、現職教員院生に授業実践の経験に基づく資料を準備してもらおう。そして、議論やレポート等に基づいて、社会科の学習指導法の理論的検討や、社会科の授業実践の力の育成を行う。</p> <p>また、教科のねらいや高知県の課題に即してICT機器も活用し児童生徒の学習意欲を喚起し対話を促進し社会科における深い学びを実現することのできる、創意工夫ある社会科の学習指導の力を育成する。</p> <p>8 古市直樹 社会科教育の中・高等学校分野に関して主たる役割を果たす。 10 藤田詠司 社会科教育の小・中学校分野に関して主たる役割を果たす。 40 武田敏宏 社会科教育の実践的側面に関して主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>社会科教材研究・開発の理論と実践</p>	<p>社会科（および地理歴史科と公民科）の授業のための教材研究・開発のあり方について、重要な要素を見いだしつつ実践的能力を育成する。学習指導要領等で示されている社会的な見方・考え方を働かせた課題追究・解決の活動を通して公民としての資質・能力の基礎を育成できるような教材づくりの力を育てる。</p> <p>社会科（および地理歴史科と公民科）においては、分野（科目）の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、社会的事象に関する本質的な概念や知識を形成したり、社会との関わりを意識した課題を追究し解決したりする活動の充実が求められている。そのための教材を、児童生徒の発達段階や高知県の課題も踏まえつつ、また、ICTによるデジタル教育の観点からも研究・開発していける力を育成する。</p> <p>8 古市直樹 社会科教育の中・高等学校段階に関して主たる役割を果たす。 10 藤田詠司 社会科教育の小・中学校段階に関して主たる役割を果たす。 40 武田敏宏 社会科教育の実践的側面に関して主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>

<p>社会科教育マネジメントの理論と実践</p>	<p>社会的現象に関する課題を主体的に解決してよりよい社会を実現しようとする態度などを育成する社会科教育のマネジメントのあり方について、地理歴史科教育や公民科教育に通ずるものも含め重要な要素を見いだしつつ実践的能力を育成する。学習指導要領のねらいや高知県の学力向上等に関する課題についての理解に基づく社会科教育マネジメントの力を育む。</p> <p>カリキュラムの計画、実践、評価、改善のサイクルで教科経営を見直す方法について学んだり、外部人材や施設等を活用しつつ教科内容についての児童生徒の体験的・経験的な理解を深めたりすることができるカリキュラム・マネジメントの力も育成する。</p> <p>8 古市直樹 社会科教育の中・高等学校段階に関して主たる役割を果たす。</p> <p>10 藤田詠司 社会科教育の小・中学校段階に関して主たる役割を果たす。</p> <p>40 武田敏宏 社会科教育の実践的側面に関して主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>社会科授業分析・改善演習</p>	<p>学習指導要領に基づき社会科（および地理歴史科と公民科）の授業を批判的に検討する観点や方法について授業分析などを通して学んでもらう。社会科の授業改善のために多様な学習方法と授業分析とを関連させる。また、指導案作成や演習を通して、院生に具体的な課題設定や授業改善の方法を探究し課題設定や授業改善に関する実践的能力を身につけてもらう。</p> <p>想定される児童生徒の発達段階や高知県の課題や、院生自身の批判的・開発的視点による授業実践分析も重視しつつ、社会科における深い学びを実現する現実的で具体的な授業改善方法を院生自身が考案できるようにする。</p> <p>8 古市直樹 社会科教育の中・高等学校段階に関して主たる役割を果たす。</p> <p>10 藤田詠司 社会科教育の小・中学校段階に関して主たる役割を果たす。</p> <p>40 武田敏宏 社会科教育の実践的側面に関して主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>特別支援教育コース</p> <p>特別支援教育の理論と推進・連携体制の構築</p>	<p>「学校の特別支援教育体制づくりと特別支援教育制度」では学校体制づくりの専門性として、個別指導を行う教員に助言をする力としての「学級・HR経営力」、管理職に提案をする力としての「戦略マネジメント力」、学校内の特別支援教育コーディネーターと共に学校体制を整備する力としての「チームマネジメント力」を育成する。幼・小・中・高および特別支援学校を対象と想定しており、また、学部卒の院生を考慮し、事例を用いた講義、対話型の講義構成、随時の文献提示による共通の知識理解に基づいた講義を行うように、最新の事例研究の知見を受講生が調べてレポートして検討するという形態も取り入れつつ、講義を構成する。</p> <p>本授業では、特別支援教育の学校体制作りとして、助言力としてのスーパーバイズ、調整力としてのコーディネート、提案力としてのコンサルタントをキーワードとし、受講生が各々の関心に従って実践的知識の習得をめざす。</p>	<p>※演習</p> <p>講義 22時間 演習 8時間</p>
<p>限局性学習症評価の基礎と実際</p>	<p>限局性学習症（SLD）など発達障害のある子どもに対応するためには、彼らが示す認知特性を理解し特性に応じた指導を展開することが求められる。本授業では、幼稚園・小学校・中学校・高等学校でよく用いられる発達特性を理解するためのアセスメントを取り上げ、その方法・解釈・指導への活用法について、受講生が最新の研究論文を抄読しレポートすることを通してアセスメントの実践的活用について理解する。</p>	<p>※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>限局性学習症指導の理論と実践</p>	<p>Specific Learning Disorder (SLD)（限局性学習症）は、「読字」、「書字」、「算数」の障害を主症状とする神経発達症であり、小学校・中学校・高等学校の通常の学級に在籍している者も多い。SLDの認知背景には、言語または非言語的処理過程の様々な障害が想定されていることから、適切な指導に当たっては、その前提としてそれら認知的背景を理解する必要がある。一方、幼稚園、小学校、中学校、高等学校など、その発達段階と教育環境に応じて求められる「読み・書き・計算」のスキルは異なり、またSLD児の学習のつまずきは多様である。したがって、SLDに対して適切な指導／支援を展開していくに当たっては、認知的背景理解とともに、発達段階や学習スキル、個人のつまずきなど種々の要因を包括的に捉えることが必要である。</p> <p>本授業では、SLDの指導に関し、認知特性・アセスメント・指導をキーワードとし、受講生が各々の関心に従って最新の研究論文を抄読・レポートし討論することを通して実践的知識を習得する。</p>	<p>※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>

注意欠如多動症評価の基礎と実際	<p>注意欠如多動症は、認知機能のアンバランス、自己コントロール（抑制能力、実行機能）の弱さ、不注意さによって、学習の遅れ、集団不適応、二次障害による問題行動などの状態になり、支援が必要になる。家庭や学校において注意欠如多動症の行動の背景について正しく評価し適切な対応をすることは、児童生徒の発達を促し二次障害を予防する。この授業では、前半で認知機能、脳機能の背景理解とアセスメント方法について講義し、後半で受講生がアセスメント法を用いた事例研究論文を発表し討議する。発表においては学校での支援会議等を想定して、アセスメントの解釈とそれに基づいた支援方法の適切さをわかりやすく説明することが求められる。</p>	<p>※演習 講義 18時間 演習 12時間</p>
注意欠如多動症指導の理論と実践	<p>注意欠如多動症は、認知機能のアンバランス、自己コントロール（抑制能力、実行機能）の弱さ、不注意さによって、学習の遅れ、集団不適応、二次障害による問題行動の状態になりやすい。注意欠如多動症の指導の原則は、行動背景の正しい理解および適切な指導の実践である。注意欠如多動症のある児童生徒の問題改善をより効果的にするためには、学校全体の共通理解も必要である。この授業では、前半で注意欠如多動症についての指導法の基礎を学び、後半で受講生が注意欠如多動症の指導法の事例研究論文を発表し討議する。発表においては、学校での支援会議等を想定して指導の具体的方法及び指導結果について参加者にわかりやすく説明することが求められる。</p>	<p>※演習 講義 16時間 演習 14時間</p>
知的障害指導の理論と実践	<p>知的障害児は記憶能力、抽象能力等の発達に障害があるため、様々な学習特性を有する。特別支援学校（知的障害）では、そのような学習特性をふまえて、他障害種の特別支援学校とは別の教育課程が設定されている。本授業では、主として初期認知の学習研究から導き出された知見を紹介し、学習特性が生ずる背景について概説する。ついで、特別支援学校（知的障害）で行われている授業実践をもとに授業方法の検討を行う。</p> <p>特別支援学校（知的障害）の教育内容は学習指導要領に規定されているが、知的障害の様相が多様であるため、実際の指導内容や方法は各学校に任されている傾向が強い。そこで本授業では受講生に特別支援学校（知的障害）を中心とした最新の指導実践研究論文を検索、レポートしてもらい、討議することも重視する。それらのレポートや討議を通じて、全国の特別支援学校（知的障害）における教育課程の共通性、課題等を明らかにする。</p>	<p>集中</p>
肢体不自由評価の基礎と実際	<p>特別支援学校（肢体不自由）や通常学級に在籍する肢体不自由児の障害特性や発達段階の実態把握、及び教育効果の評価に適用される機能評価法を学ぶ。本授業では、特別支援学校等で用いることが可能な機能評価法を取り上げ、その方法・解釈・指導への活用法について、最新の機能評価事例を受講生が論文抄読によりレポートし演習形式で理解を深める。</p> <p>2 是永かな子 全体の総括・調整を行う。 24 橋本典子 肢体不自由の実態把握の検討において主たる役割を務める。</p>	<p>共同 ※演習 講義 16時間 演習 14時間</p>
病弱評価の基礎と実際	<p>特別支援学校（病弱）に在籍する病弱児について、大きく分類して慢性疾患、精神疾患の枠組みの中でいくつかの疾患種を想定し、病理の理解と指導の実際について学習する。特に、疾患の背景のとらえ方、実際の指導方法の省察方法等について学習する。なお、授業の進め方については、最新の研究論文を抄読し、発表する形式でおこなうものとする。</p> <p>第1回：ガイダンス（担当：2 是永かな子） 第2回：病弱教育対象児の生理・心理（担当：41 本浄謹士） 第3回：発達障害の基礎（担当：41 本浄謹士） 第4回：発達のとらえ方-ESSENCE-（担当：41 本浄謹士） 第5回：発達障害 何が問題か（担当：41 本浄謹士） 第6回：対応の基礎（担当：41 本浄謹士） 第7回：病弱特別支援教育の現状（担当：2 是永かな子） 第8回：病弱児の理解と支援（担当：2 是永かな子） 第9回：病弱特別支援学校の歴史と歴史（担当：2 是永かな子） 第10回：病弱特別支援教育の教育課程（担当：2 是永かな子） 第11回：病弱特別支援教育の「自立活動」の理解（担当：2 是永かな子） 第12回：個別の指導計画と合理的配慮（担当：2 是永かな子） 第13回：病弱特別支援教育の課題（担当：2 是永かな子） 第14回：総括（担当：2 是永かな子） 第15回：評価活動（担当：2 是永かな子）</p>	<p>オムニバス 集中</p>

		高知県の特別支援教育の実態把握と分析	<p>高知県の特別支援教育の実態についてその概要を理解するとともに、受講生自身も高知県の特別支援教育の取組や実態をレポートしてその分析を多面的・多角的に検討するという形態を主とした演習を行う。そのうえで、校内研修のテーマ設定や校内研修の推進、展開においてキーパーソンとなるように、特別支援教育にかかわる研究領域において、関係者が共有すべき最新の研究動向を文献講読等も行いながら把握し、高知県の学校教育の現場に提案できる力を育成する。</p> <p>2 是永かな子 全体の総括・調整を行う。 理論的側面に関して主たる役割を果たす。</p> <p>24 橋本典子 特別支援教育の実践的側面に関して主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
総合実践力科目	学校マネジメントコース	教育実践研究Ⅰ（学校マネジメント）	<p>「学校マネジメント実習Ⅰ」における教育活動の取り組みを支える学校組織や学校評価について学び、理論と実践の融合を図りながら実習における自らの課題を省察的に捉え、学校マネジメントに関する理解を確かなものにする。なお、本科目では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育活動を省察したりすることを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会する合同ゼミを2回開催する。これらの活動を通して、自らの実践研究を省察し、「教育実践研究Ⅱ」に向けた展望と研究方針、計画等を明確にする。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 22時間 講義 8時間</p>
		教育実践研究Ⅱ（学校マネジメント）	<p>「学校マネジメント実習Ⅱ」における教育活動の取り組みを支える学校組織や学校評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉え、学校マネジメントに関する理解をもとに思考を深める。なお、本科目では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育活動を省察したりすることを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会するゼミを2回開催する。これらの活動を通して、実習における自らの実践研究を省察し、総括を行う。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 44時間 講義 16時間</p>
		総合実践研究（学校マネジメント）	<p>学校マネジメントコースにおいて、講義科目と実習科目を通した2年間の学修を総合的に検討し、理論と実践の融合を図りながら学校の課題解決に資する自身の指導理論を構築する。その過程では、学校マネジメントに関する研究課題の立案や研究の構想、実践等を検証するためのデータ収集や分析などの研究手法についても学ぶ。また、自身の指導理論を支える先行研究や先行事例、諸理論についても理解し、エビデンスに基づく理論構築を図っていく。さらには、自身の指導理論を多角的に検討し、再構成しながら学校現場で汎化活用できる指導理論にまで高めていく。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 22時間 講義 8時間</p>
授業実践コース		教育実践研究Ⅰ（授業実践）	<p>「授業実践実習Ⅰ」における教育活動の取り組みを支える教授方法や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉え、授業実践に関する理解を確かなものにする。なお、本科目では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育実践を省察したりすることを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会する合同ゼミを2回開催する。これらの活動を通して、自らの実践研究を省察し、「教育実践研究Ⅱ」に向けた展望と研究方針、計画等を明確にする。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 22時間 講義 8時間</p>
		教育実践研究Ⅱ（授業実践）	<p>「授業実践実習Ⅱ」における教育活動の取り組みを支える教授方法や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉え、授業実践に関する理解をもとに思考を深める。なお、本科目では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育活動を省察したりすることを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会するゼミを2回開催する。これらの活動を通して、実習における自らの実践研究を省察し、総括を行う。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 44時間 講義 16時間</p>
		総合実践研究（授業実践）	<p>授業実践コースにおいて、講義科目と実習科目を通した2年間の学修を総合的に検討し、理論と実践の融合を図りながら学校の課題解決に資する自身の指導理論を構築する。その過程では、授業実践に関する研究課題の立案や研究の構想、実践等を検証するためのデータ収集や分析などの研究手法についても学ぶ。また、自身の指導理論を支える先行研究や先行事例、諸理論についても理解し、エビデンスに基づく理論構築を図っていく。さらには、自身の指導理論を多角的に検討し、再構成しながら学校現場で汎化活用できる指導理論にまで高めていく。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 22時間 講義 8時間</p>

特別支援教育コース	教育実践研究Ⅰ（特別支援教育）	「特別支援教育実習Ⅰ」における教育活動の取り組みを支える支援方法や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉え、特別支援教育に関する理解を確かなものにする。なお、本科目では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育実践を省察したりすることを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会する合同ゼミを2回開催する。これらの活動を通して、自らの実践研究を省察し、「教育実践研究Ⅱ」に向けた展望と研究方針、計画等を明確にする。	共同 集中 ※講義 演習 22時間 講義 8時間
	教育実践研究Ⅱ（特別支援教育）	「特別支援教育実習Ⅱ」における教育活動の取り組みを支える支援方法や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉え、特別支援教育に関する理解をもとに思考を深める。なお、本科目では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育活動を省察したりすることを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会するゼミを2回開催する。これらの活動を通して、実習における自らの実践研究を省察し、総括を行う。	共同 集中 ※講義 演習 44時間 講義 16時間
	総合実践研究（特別支援教育）	特別支援教育コースにおいて、講義科目と実習科目を通じた2年間の学修を総合的に検討し、理論と実践の融合を図りながら学校の課題解決に資する自身の指導理論を構築する。その過程では、特別支援教育に関する研究課題の立案や研究の構想、実践等を検証するためのデータ収集や分析などの研究方法についても学ぶ。また、自身の指導理論を支える先行研究や先行事例、諸理論についても理解し、エビデンスに基づく理論構築を図っていく。さらには、自身の指導理論を多角的に検討し、再構成しながら学校現場で汎化活用できる指導理論にまで高めていく。	共同 集中 ※講義 演習 24時間 講義 6時間
実習科目	学校マネジメントコース		
	学校マネジメント実習Ⅰ（学部卒用）	本科目では、学校マネジメントコースの学部卒院生が、高知大学教育学部附属学校園及び高知県立高校のうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において1年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、学級に配属され、T2として教育活動を行ったり、担任業務の補助や特定の校務分掌の補佐を行ったりする中で、自身の論究すべき研究課題を整理し、課題に基づいて教科等の単元における授業実践を行う。	共同 集中
	学校マネジメント実習Ⅱ（学部卒用）	本科目では、学校マネジメントコースの学部卒院生が、自身の研究課題に基づいて決定した協力校において2年次通年集中科目として実習を行う。協力校においては、授業や学校行事、校内研究会や職員会議などにも参加し、学校の一員として学校・学級運営に当たる中で、「実習Ⅰ」で身に付けた学校・学級マネジメント力を協力校の実態に応じて発揮し、自身の研究を深化させるとともに、自身の教職就職後の研究テーマを明確化する。	共同 集中
	学校マネジメント実習Ⅰ（現職教員用）	本科目では、学校マネジメントコースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において1年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、学校マネジメント等に関する教育活動に参画する中で、学校課題や教育課題を分析し、その明確化を図り、実践研究の見通しを立てる。	共同 集中
	学校マネジメント実習Ⅱ（現職教員用）	本科目では、学校マネジメントコースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において2年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、学校マネジメント等に関する教育活動に参画する中で、「実習Ⅰ」で行った実践研究の分析をもとに更に探究的に課題解決を行うとともに、自ら企画・立案した解決策を探究的に実践し、その成果を検証して、より効果的な実践（指導理論）を構築していく。	共同 集中
授業実践コース	授業実践実習Ⅰ（学部卒用）	本科目では、授業実践コースの学部卒院生が、高知大学教育学部附属学校園及び高知県立高校のうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において1年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、学級に配属され、T2として教育活動を行ったり、担任業務の補助や特定の校務分掌の補佐を行ったりする中で、自身の論究すべき研究課題を整理し、課題に基づいて教科等の単元における授業実践を行う。	共同 集中
	授業実践実習Ⅱ（学部卒用）	本科目では、授業実践コースの学部卒院生が、自身の研究課題に基づいて決定した協力校において2年次通年集中科目として実習を行う。協力校においては、授業や学校行事、校内研究会や職員会議などにも参加し、学校の一員として児童生徒の指導に当たる中で、「実習Ⅰ」で身に付けた単元構想力や授業実践力を協力校の実態に応じて発揮し、自身の研究を深化させるとともに、自身の教職就職後の研究テーマを明確化する。	共同 集中

	授業実践実習Ⅰ（現職教員用）	本科目では、授業実践コースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において1年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、学級経営、授業実践等に関する教育活動に参画する中で、学校課題や教育課題を分析し、その明確化を図り、実践研究の見通しを立てる。	共同集中
	授業実践実習Ⅱ（現職教員用）	本科目では、授業実践コースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において2年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、学級経営、授業実践等に関する教育活動に参画する中で、「実習Ⅰ」で行った実践研究の分析をもとに更に探究的に課題解決を行うとともに、自ら企画・立案した解決策を探究的に実践し、その成果を検証して、より効果的な実践（指導理論）を構築していく。	共同集中
特別支援教育コース	特別支援教育実習Ⅰ（学部卒用）	本科目では、特別支援教育コースの学部卒院生が、高知大学教育学部附属学校園及び高知県立高校のうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において1年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、学級に配属され、T2として教育活動を行ったり、担任業務の補助や特定の校務分掌の補佐を行ったりする中で、自身の論究すべき研究課題を整理し、課題に基づいて教科等の単元における授業実践を行う。	共同集中
	特別支援教育実習Ⅱ（学部卒用）	本科目では、特別支援教育コースの学部卒院生が、自身の研究課題に基づいて決定した協力校において2年次通年集中科目として実習を行う。協力校においては、授業や学校行事、校内研究会や職員会議などにも参加し、学校の一人として児童生徒の指導に当たる中で、「実習Ⅰ」で身に付けた個別支援力や授業実践力を協力校の実態に応じて発揮し、自身の研究を深化させるとともに、自身の教職就職後の研究テーマを明確化する。	共同集中
	特別支援教育実習Ⅰ（現職教員用）	本科目では、特別支援教育コースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において1年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、特別支援教育に関する教育活動に参画する中で、学校課題や教育課題を分析し、その明確化を図り、実践研究の見通しを立てる。	共同集中
	特別支援教育実習Ⅱ（現職教員用）	本科目では、特別支援教育コースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において2年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、特別支援教育に関する教育活動に参画する中で、「実習Ⅰ」で行った実践研究の分析をもとに更に探究的に課題解決を行うとともに、自ら企画・立案した解決策を探究的に実践し、その成果を検証して、より効果的な実践（指導理論）を構築していく。	共同集中

(別紙)

国立大学法人高知大学 設置認可に関わる組織の移行表

改組前

令和4年度

学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員
高知大学			
高知大学大学院			
総合人間自然科学研究科			
人文社会科学専攻(M)	8	—	16
教育学専攻(M)	12	—	24
理工学専攻(M)	55	—	110
医科学専攻(M)	15	—	30
看護学専攻(M)	12	—	24
農林海洋科学専攻(M)	55	—	110
地域協働学専攻(M)	3	—	6
教職実践高度化専攻(P)	15	—	30
応用自然科学専攻(D)	6	—	18
医学専攻(D)	30	—	120
黒潮圏総合科学専攻(D)	6	—	18
計	217	—	506

学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
高知大学				
高知大学大学院				
総合人間自然科学研究科				
人文社会科学専攻(M)	8	—	16	令和4年4月募集停止
理工学専攻(M)	55	—	110	
医科学専攻(M)	15	—	30	
看護学専攻(M)	12	—	24	
農林海洋科学専攻(M)	55	—	110	
地域協働学専攻(M)	3	—	6	
教職実践高度化専攻(P)	15	—	30	専攻の設置(事前相談) 令和4年4月募集停止
応用自然科学専攻(D)	6	—	18	専攻の設置(意見伺い)
医学専攻(D)	30	—	120	
黒潮圏総合科学専攻(D)	6	—	18	
計	205	—	482	

人文社会科学部	275		1,120
人文社会科学科	275	3年次 10	
教育学部	130		520
学校教育教員養成課程	130	—	
理工学部	240		980
数学物理学科	55	3年次 2	
情報科学科	30	3年次 2	
生物科学科	45	3年次 2	
化学生命理工学科	70	3年次 2	
地球環境防災学科	40	3年次 2	
医学部	170		915
医学科	110	2年次 5	
看護学科	60	3年次 10	
農林海洋科学部	200	—	800
農林資源環境科学科	90	—	
農芸化学科	45	—	
海洋資源科学科	65	—	
地域協働学部	60	—	240
地域協働学科	60	—	
計	1,075	3年次 30 2年次 5	4,575
計	1,292	—	—

人文社会科学部	275		1,120
人文社会科学科	275	3年次 10	
教育学部	130		520
学校教育教員養成課程	130	—	
理工学部	240		980
数学物理学科	55	3年次 2	
情報科学科	30	3年次 2	
生物科学科	45	3年次 2	
化学生命理工学科	70	3年次 2	
地球環境防災学科	40	3年次 2	
医学部	170		915
医学科	110	2年次 5	
看護学科	60	3年次 10	
農林海洋科学部	200	—	800
農林資源環境科学科	90	—	
農芸化学科	45	—	
海洋資源科学科	65	—	
地域協働学部	60	—	240
地域協働学科	60	—	
計	1,075	3年次 30 2年次 5	4,575
計	1,292	—	—